

【別紙様式Ⅰ】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立三田小学校

厚木市教育委員会の基本目標		1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】		校長名 田口 真由美
学校教育目標		学校経営の方針		
人権 安心・安全 「自己肯定感」を育む教育の推進		「互いに認め合い、安心して生活できる学校」		
今年度の重点目標				
○インクルーシブ教育：誰もが居心地のよい認め合える場を基本とする。（教室、特別教室、三田っ子ルーム、心の相談室、保健室等）、組織的な指導力・対応力の向上、多面的な児童理解 ○学力向上：授業改善、小中の円滑な接続（高学年教科担任制）、校内研究の充実、カリキュラム・マネジメント ○道徳教育：「全校道徳」〈重点項目…親切・思いやり〉、「人権月間」11月、「命の日」 ○安全教育：避難訓練、引き渡し訓練、不審者対応訓練、登下校指導、交通安全教室 ○ESD：SDGsの取組…総合的な学習の時間、生活科、理科、社会科、食育等				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学ぶ力や態度の育成 【学力向上】	1	・校内研究を通じた授業改善	○『「分かった！できた！輝く笑顔三田っ子」～わかる授業、魅力ある授業 算数科の授業を通して～』に重点を置いて研究を進めてきた。 【成果】授業における基礎基本を定着させるための手立ての確立 A 授業時間の構造化 B 課題・発問の焦点化 C 板書・掲示物の視覚化 D 既習事項の反復練習 【課題】 ・習熟度による学習時間への対応 ・評価の時期と方法の明確化	○今後とも、『「分かった！できた！輝く笑顔三田っ子」～わかる授業、魅力ある授業 算数科の授業を通して～』を目指す。 ○指導と評価の一体化を意識することで、つけたい力のために最適な支援や活動を取り入れる等の授業改善を図る。
互いの良さを認め合え、人権尊重を重視した心の育成 【人権】	1・2・3	・「特別の教科 道徳」の推進 ・命の日 ・人権旬間	○道徳教育推進教諭を中心に「思いやり」をテーマに、全校一斉に道徳の授業を行った。 【成果】 ・学級の枠を超えた交流を通して、考えの幅が広がるとともに、それぞれの価値観や考えを認め合える場となった。 ○「命の日」を設定し、全校に向けて心に響く取組をしたり、学年の発達段階に応じた「命」を大事にする指導を行ったりしてきた。 【成果】 ・様々な視点から「命」について考えることができた。 ○人権旬間に、人権担当や児童の話を放送したり、いじめや暴力は絶対に許してはいけないということを再確認したりした。 【成果】 ・互いを大切にする心を育成するとともに、互いの良さを認め合うことを大切にする心を育成することができた。 【課題】 ・人権旬間だけではなく、随時人権意識を高める活動が必要である。	○次年度も引き続き道徳教育推進教諭を中心に「全校道徳」を計画実施していく。このことにより、児童のより豊かな心の育成に努める。 ○今後とも、教材研究を重ね、授業改善を行いながら、「考え」「議論する」道徳を展開していく。 ○年間を通して、自分の命も他者の命も大切にすることを育てていく。また、自分の命は自分で守るという意識の定着を図る。 ○人権意識を高めるために、教職員自身がよい手本となるよう意識を高くもって児童支援及び児童指導にあたる。 ○人権旬間において、「命の授業」同様、より児童の豊かな心の育成に努めるために、計画的に実施していく。
安心安全な学校環境づくり 【安心・安全】	3	・清掃指導の徹底	○清掃計画を検討し、予算を使って用具もそろえて指導を行った。 【成果】 ・水飲み場近くの床など汚れが落ちにくいところも清潔に保つことができた。 ・11月にPTA活動として保護者の手によりトイレや手洗い場がきれいになり、ありがたかった。 【課題】 ・児童の活動に制限があるため、きれいになりにくいところもある。	○清掃活動を通して、自分達の学校をきれいにしようとする気持ちを育てていく。 ○児童の手が届きにくいところに関しては、保護者や地域に力を借りていく。

健康安全教育の推進 【安心・安全】	1・3	・地域と連携した安全指導	○地域の「見守り隊」のみなさんと協力しながら、児童の登下校時における安全指導を行ってきた。 【成果】 ・三田小学校の全児童を、地域、保護者、学校で見守ることができた。 【課題】 ・地域にお願いすることが多くなり、家庭との連携が図れていないというご意見をいただいている。	○学校評価でも、登下校の見守りについて保護者の参加が課題に挙がっていたため、PTAに呼びかけたり、学校だよりやHPを利用したりして、保護者の参画を促していきたい。
きまりやマナーを守って生活する子の育成 【人権】	2・3	・あいさつや言葉遣い、廊下歩行、名札着用の指導の徹底	○気持ちのよいあいさつができる児童が増えてきている。全教職員で同じ指導をしていけるように、学校のきまりについて共有化を図ることができた。 【成果】 ・保護者、地域共にあいさつに関して肯定的な評価をしている。（児童によって、もしくは登校班の班によって課題が残っている。）	○どこでも、誰にでも進んで自分からあいさつができるように今後とも指導を続けていく。 ○約束を守る大切さ、集団で生活するために必要なことを意識させるとともに、自ら学校をよくしていこうとする態度の育成に努める。また、自分達の活動が、学校をよくしていくことにつながっているということを実感させることにより、自己肯定感を育てていく。
個に応じた配慮や支援・教育相談	1・2・3	・支援ミーティング ・三田っ子ルームの活用 ・児童教育相談 ・SCや元気アップアシスタントとの連携 ・ケース会議 ・問題行動への迅速な対応 ・他機関との連携	○三田小学校の全児童を、全教職員で支援していく体制をとることができた。また、積極的に外部機関との連携を図ることができた。 【成果】 ・保護者からは、「先生方みんなで見守ってくれている」などという意見を多数いただいた。家庭と協力して児童に寄り添った支援・指導を図ることができた。 ・児童一人一人の状況を丁寧に見取り、課題に対して速やかに支援することができた。また、家庭との情報共有や医療連携を含めた他機関との連携も問題解決の有効な手立てとなった。 【課題】 ・個々の抱える課題が多様化しているため、それぞれに合った支援策を講ずることができるように教職員の研修が必要である。	○授業づくりを工夫し、個に応じた支援を推進するとともに、学カステップアップ支援員や元気アップアシスタントによる個別支援をさらに充実させていく。 ○様々な事情で学校に登校することが難しくなっている児童が増えてきている実態から、家庭と連携したり、ケース会議を行ったり、他機関と連携しながら支援の充実を図っていく。 ○児童の抱える課題が多様化しているため、今後ともアンテナを高くして支援をしていく必要がある。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

・児童の挨拶はとてもよくできていると思います。明るい表情がうれしいです。 ・子ども達が素直で、健康的、挨拶もよくできると思います。 ・先生方にも明るさ、元気が感じられます。 ・新しいことへの取組や、地域との関係を大切にしていることがよいです。 ・児童が積極的に挨拶をするところがよいと感じています。（低学年の挨拶は元気で気持ちがよいです。） ・学年交流は、よい取組だと思います。 ・児童がのびのびと学校生活を過ごしていることで授業参観や登下校の様子からそれを感じます。 ・近年、核家族が多く、両親、兄弟以外との関わりが減少している方が多い中、三田小は地域との関わりが多く、他人の方に声を掛けていただく機会もあり、自然とコミュニケーションの取り方が学べてとてもよいと思います。 ・学年関係なく仲良く遊べていると思います。「三田っ子ルーム」に休み時間に遊びに来てくれる子ども達は、上学年の子が下学年にゲームを教えてあげる姿がかわいくてほほえましい。 ・地域の方々の連携や協力体制がすばらしい。 ・先生方のきめ細かい学習指導や児童指導には頭が下がります。放課後になると、家庭への連絡など、欠かさずされている姿（あたり前かもしれませんが）が見られます。 ・三田小の子ども達は、挨拶がよくできていると思います。登下校時も近所や地域の方々にも挨拶している様子を見かけます。また、帰宅後、学年に関係なく楽しく遊んでいますので、保護者の方も安心かと思います。 ・三田っ子は、登校時に友達や保護者、見守り隊の人たちに元気な挨拶ができています。上級生と下級生との交流が多く、優しい児童が多いと思います。学校では、学年の枠を超えて学び、遊びをしている姿が見られ、児童がいきいきとした学校づくりが進んでいると思います。	・自然のままでもよいのではないかと思います。 ・今後も、子ども達の自主性、個性を大事にしてください。 ・生活様式が多様化している中で、先生方の取り組み方も大変かとは思いますが、保護者ももっと学校、子ども達に視線を向けるように策を施してほしいです。その1つとして、アンケートでゲームをする時間が非常に多いように思います。学力の向上を妨げていると思います。この辺の取り組み方で、三田小の伸びしろはまだある様に思います。 ・よいところの継続。地域とのつながりを深めて、地域と共に成長していっていただきたい。（児童が様々な行事に参加） ・交通事故等は絶対にないよう交通ルールを守り、安全に生活するよう児童に指導すること、思いやりや助け合いの心を持った人間に成長するよう、自他の心については大事なことと児童に理解してもらえるように心がけていただきたい。 ・現状維持がとても難しい時代だと思います。今の三田小（先生方との交流等）と地域が長く続くといいです。 ・以前に比べ、学校HPの更新回数が減り、学校、児童の様子を知る機会が減りました。様々なツールを活用し、学校の「見える化」が進むことを期待しています。また、近年、児童を取り巻く家庭環境、教育環境が大きく変化し、さらに保護者の価値観が多様化してきていると感じます。先生や学校だけでは解決できない。負担が増えることも増加してきているように思います。未来を見据え、引き続き地域を巻き込んだ元気な学校づくり、児童の元気な心づくりを期待しています。
---	---

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

「人権」「安心・安全」を学校経営の最重要項目にあげ、チーム三田を合言葉に全教職員一丸となって、児童が心も体も安心・安全に過ごせる学校づくりに努めてきた。 安心・安全な環境づくりとして、各種訓練の計画を再検討した。また、心の安心・安全として、個に応じた配慮や支援の体制をさらに整えるとともに、医療連携を含む、外部機関との連携を積極的に図ってきた。 次年度に向けても、児童の人権を守るとともに人権感覚を養う学校を創るための組織を確立する。また、チームとして一人一人の児童に寄り添い、適切な支援を行うとともに、他機関との連携や人的配慮、合理的配慮についてもさらに改善を図っていく。
--